

# 「にぎわいの創出としてのクリスマスマーケット」

## アテンダントチーム

ミュージアムショップ担当 青野佐和子 高野水無

### 概要

浜松科学館は、科学や自然に関する展示に加え、地域企業の協力による展示も特徴の一つである。そのような観点から、ミュージアムショップでも地域の商品を多く取り扱うようにしている。その延長として、地域のにぎわい創出を意図としたクリスマスマーケットを今回初めて科学館で開催した。浜松市および周辺地域で「ものづくり」活動をされているクラフト作家や生産者、菓子職人などに出演していただき、対面販売や来館者がものづくりを体験できるワークショップを通して、地域の作家、生産者を紹介する場とした。

#### 1. はじめに

当館は遠州の自然や地元企業の協力による展示など地域性の高い展示が特色の一つとなっている。地元で活動されている作家、店舗に出演していただき、人と人の交流の場を提供すると共に、来館者へさらなる浜松の魅力を伝えることができた。企画から実施までの概要を記録する。

#### 2. 募集内容

主に浜松市及び周辺地域で生産・活動している方を対象とした。手作りの雑貨、菓子、加工食品、工作体験ができるワークショップなど。屋内開催の為、食品の出店者には火気厳禁とし、調理済の食品に限った販売をお願いした。

#### 3. 開催までの準備

館内エントランスのカフェコーナー及びミュージアムショップ周辺で開催したが、スペースに限りがあるため、テーブル1脚

とイス2脚を館で用意し、テーブルの範囲内での出店をお願いした。

当初は SNS を使用して募集をかけたが、開催まで2カ月を切っていた事もあり、出店者が思うように集まらなかった。そのため、担当者から地域の作家、店舗へ出店を直接依頼したり、地域のマルシェ主催者に紹介していただいたりして計18店舗にご出店いただけることとなった。初めての開催であり、開催までの準備期間が短かったため出店者側への周知が課題として残った。

広報として当館の情報誌「COMPASS」、静岡新聞情報誌「びぶれ」、チラシ作成、SNSを使用した来館者への周知に努めた。



#### 4. 当日の様子

参加店舗：18 店舗（順不同）

ビーズのお店

（ビーズ・レジンアクセサリー・浜松）

kippis by SHUHODO

（カステラ饅頭、焼菓子、洋菓子・浜松）

AKI.leather&crafts

（革小物・浜松）

Nonet

（クラフトチョコレート、カカオ製品、雑貨・浜松）

Hopuni

（がま口ポーチ・愛知）

カドヤサン

（フルーツサンド・磐田）

h&N

（ハーバリウムなどの雑貨・浜松）

みのり

（オリーブ製品、ハンドメイド商品・浜松）

幻想工房きつねや

（恐竜イラストの手作りマグネット、シール・浜松）

むすび

（おにぎりとおにぎりバーガー・浜松）

エチラオチラ

（ゆかいな顔アクセサリー作り・磐田）

サンフィッシュ木野

（お弁当・浜松）

Quiche de HAMAMATSU by はじめてのキ

ッシュ（各種キッシュ・浜松）

シロップ

（焼菓子、スコーン・浜松）

手作り工房いしかわ

（手作りバッグ、小物・浜松）

Black butterfly

（サンドアートワークショップ・浜松）

aoitorichibicandle/ReveChercher

（キャンドル、天然石レジンアクセサリー等・磐田）

riomoon500

（遠州綿紬アクセサリー・浜松）



○手作りキャンドルの作家さんによる作品  
科学館をイメージした星や空のキャンドル  
を販売。



○レザークラフトのワークショップ  
皮革商品を製作販売されている作家のワ  
ークショップでは、通常なら廃棄してしまう  
ような細かい端布を使用してオリジナルの  
ブローチなどの作成を体験。

SDGs の観点からだけでなく、ふぞろいな  
形のいろいろな素材からイメージをふくら  
ませる楽しさを体験していただいた。



○食品販売



食品は地域のマルシェに出店経験のある方  
や比較的新しく開店した店舗が出店。

地域のマルシェで人気の菓子のブースには  
列をなすこともあった。

菓子と食事系（お弁当、おにぎり、キッシュ  
など）は、多彩なメニューで店舗ごとに差別  
化できたことで、幅広い層の来館者のニー  
ズに応えることができた。

## 5. 出店者アンケートから見る今後の課題

出店者アンケートから

- ・屋外での出店希望（飲食店）
- ・カーテンが必要
- ・日よけ対策をしてほしい

との意見が寄せられた。

屋内会場ということで、出店者、来館者とも  
に冬でも暖かくマルシェを楽しんでもらえ  
たのは良かったが、施設の構造上、窓際は日  
差しが強く、高温になる出店場所もあった。  
会場設営の際に、日よけの設置や、窓際は避  
けるなどの対策をしたい。

また、食品系の出店者の中には冷蔵、保温な  
どの機器の持ち込みを希望する方もいた。  
室内開催で電源の確保が難しいことから、

今回は、調理済食品のみの販売をお願いした。次年度は、発電機の持ち込みができるキッチンカーなど開催時期に応じて、屋外での開催も検討したい。

今回、施設使用料、チラシ作成費など必要経費として出店料を徴収した。これに対し、不満と回答された出店者がいたものの、出店料の設定金額としては概ね妥当だったと思われる。

来場者数は、事前告知期間が短いなかでの開催だったこともあり、後半伸び悩んだ。クリスマスマーケットが目当てのお客様もいたが、ほとんどは来館者が科学館を楽しんだ後に立ち寄りという流れだった。しかし、そんな状況だったにもかかわらず出店者からは継続を望むご意見を多くいただいた。出店者から聞いたマルシェの一般的な傾向によると、継続することで認知度が上がり、集客につながるということから、今後もクリスマスマーケットを含め、定期的にマルシェを開催していきたい。

## 6. 終わりに

今回、数年のコロナ禍を経て、やっと実現した「みらいーらクリスマスマーケット」。多くの来館者にマルシェにお立ち寄りいただき、昼食のお弁当やお土産を購入していただいた。子どもたちは、ブースでクリスマス工作をしたり、地元作家と交流したりするなど、いつもの科学館とは違う体験を楽しんでもらえたのではないかと思う。

今回の開催を通して、店舗や作家の皆さんそれぞれが、素晴らしいコンセプトをもって取り組まれていることを知ることができた。その活動や取り組みについて、来館者を

含めた地域の皆様へ伝えていくことが、「地域への誇りと愛着の醸成」につながるとともに、地域のにぎわい創出への第一歩だと感じている。

マルシェのような、一見すると科学館とは無関係のように見えるイベントが、幅広い年齢層に気軽に科学館へ足を運んでもらうきっかけとなり、いつでも誰でもワクワクする、常ににぎわいのある科学館になればと思う。

今回のクリスマスマーケットが、単発のイベントで終わることなく、地域連携のひとつとして、継続的なイベントとして成長していくために、次年度は年4回のマルシェ開催を予定している。今回の反省を踏まえ、出店募集の告知には通年での開催を明示した。より多くの地元企業、作家に興味をもっていただけるように、イベント周知に努めるとともに、ワークショップに特化したマルシェや食品に焦点を当てたマルシェなど、お客様起点の、浜松科学館ならではの「マルシェ」に育てていきたい。